

# あいち農産物生産流通レポート

平成31年4月号

	ページ
◎ 情報サロン	
・ 市場担当者が大手小売企業の農業参入事例を視察	(東京事務所) 1
・ 低温期に品質・収量が優れるアオジソ品種「愛経3号」を開発	(農業総合試験場) 2
◎ 東日本情報	
・ 外部サービスの利用による農業労働力の確保	(東京事務所) 4
◎ 西日本情報	
・ 県産農林水産物のインバウンド需要拡大に向けた取組	(食育消費流通課) 7
・ 県産農林水産物のイメージアップと本県主要品目のブランド力強化の取組	(食育消費流通課) 9
◎ 青果	
・ 愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	11
・ 名古屋・東京市場における青果物の4月の見通し	12
◎ 花き	
・ 切り花・鉢花の4月の見通し(県内市場)	24

※今月、「地域トピックス」「フラワーページ」はありません。

## 内容についての問合せ先

愛知県農業水産局農政部食育消費流通課 (052)-954-6434

愛知県東京事務所行政課農産物プロモーショングループ (03)-5492-5400

平成29年4月号から、「全国における主要農産物の輸出入実績」、「関連指数」のページはなくなりました。それぞれの情報につきましては、

### 【輸出入実績】

農林水産省ホームページ内「農林水産物輸出入統計」  
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/kokusai/index.html>

### 【消費者物価指数】

全 国：総務省統計局ホームページ内「消費者物価指数月報」  
<http://www.stat.go.jp/data/cpi/>  
名古屋：愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」  
<http://www.pref.aichi.jp/soshiki/toukei/bukka.html>

### 【農業物価指数】

農林水産省大臣官房統計部「農業物価統計調査」  
<http://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/noubukka/>

### 【名古屋市小売価格】

総務省統計局「小売物価統計調査」  
[http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?\\_toGL08020101\\_](http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020101.do?_toGL08020101_)

を御覧ください。



## 市場担当者が大手小売企業の農業参入事例を視察

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

小売業大手のイオングループは、2009年7月に農業生産法人イオンアグリ創造株式会社を立ち上げ、農業分野に参入しています。京浜市場愛知県野菜連絡会のトマト・ミニトマト研究会が、2月19日（火）に埼玉県久喜市にある同社のトマト栽培ほ場（以下、イオン農場）を視察しましたので、その概要を紹介します。

### 1 市場も気にする農業参入

今回の視察は、トマト・ミニトマト研究会の市場担当者から異業種の農業参入や大規模農場の事例、市場外流通の実態などを知りたいという声があったことを受けて企画しました。昨今では、農業関係の展示会でも異業種からの参入企業や大規模農場の出展があり注目を集めています。市場サイドも企業の農業参入に高い関心を持っていることがうかがえました。



栽培施設外観

### 2 イオン農場の取組

イオン農場は11棟約3haのほ場で、大玉トマトの低段密植栽培を行っています。選果施設を所有し、完全着色したトマトを関東近郊の系列量販店に市場を通さず販売しています。また、管理面では作業オペレーション担当や施設メンテナンス担当を置くなど、効率的な農場の運営に注力しているほか、GLOBAL G.A.P.を取得して食の安全や作業改善にも取り組んでいました。



選果施設

研究会員からは、月ごとの収量のばらつきへの対応や規格外品の販売方法、販売先でのイオン農場のシェアなど、市場外の流通状況に係る質問が集中しました。また、同農場のトマトの食味については、「おいしい」という声が聞かれました。



完全着色したトマト

企業が農業に参入して大規模な農場が登場すると、生産量の増加による価格低下が心配されます。また、今回のイオン農場のような市場外流通では、生産物が農場から直接量販店の棚に並ぶことで、価格競合だけでなく、市場との流通経路の競合も想定されます。一方で、こうした企業参入や市場外流通の実態は掴みにくい現状となっているため、研究会としても積極的に情報を収集し、関係組織で共有していきたいと思えます。

## 低温期に品質・収量が優れるアオジソ品種「愛経3号」を開発

農業総合試験場

## 1 はじめに

本県のアオジソ生産量は全国第1位で、施設栽培における生産量は3,446 t（2016年産）と全国シェアの66%を占める重要な特産野菜です。栽培は、年2作型を組み合わせたローテーションで周年出荷されています。

現在栽培されている「愛経1号」（愛知県・愛知県経済農業協同組合連合会（以下、「経済連」）共同開発）は、高温期での葉形が優れることから、初夏から秋に出荷する作型を中心に普及しています。しかし、冬から春に出荷する作型においては、葉の縁が波打った状態（以下、「波打ち」）になりやすいため、葉を重ねにくく、出荷調整作業に手間のかかることが問題となっています。一方で、県内各産地で長年栽培されてきた在来系統においては、低温期に葉裏がアントシアニンにより赤色に着色し、見栄えが悪くなる場合があります。

そこで農業総合試験場と経済連が共同で、低温期における葉の品質が優れ、多収となるアオジソ新品種「愛経3号」を開発しましたので、その育成経過と特徴を紹介します。

## 2 育成経過

「愛経1号」を花粉親、在来系統のうち波打ちが少ない系統を種子親として、2009年に交配しました。その後代から、低温期でも品質が優れる株の選抜を繰り返しました。

2015年から本県のアオジソ主産地である豊橋市、豊川市及び田原市で栽培試験を重ね、有望であると判断されたため、2018年3月に品種登録出願しました（同年6月品種登録出願公表）。

## 3 新品種の特徴

## (1) 葉の波打ちが少ない

アオジソの生育適温は20℃前後で、15℃を下回る低温になると生育が遅延します。「愛経1号」はこのような低温期に波打ちが多くなりますが、本品種では波打ちの発生率が少なく、その程度も軽くなります。そのため、葉を重ね合わせる出荷調整作業が容易となります。

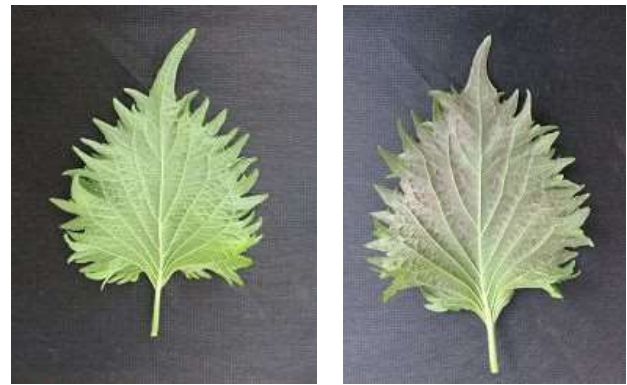


出荷調整時の結束状況

左：「愛経3号」、右：「愛経1号」

## (2) 葉裏の着色が少ない

アオジソは品種によって、18℃を下回る低温になると葉裏がアントシアニンにより赤色に着色する場合があります。本品種は、在来系統に比べ、この着色が少ないため、葉の品質が優れます。



低温期の葉裏

左：「愛経3号」、右：在来系統

## (3) 収量が多い

本品種と「愛経1号」を2年間栽培した結果、「愛経1号」と比較して1割以上、収量が増えました(図1)。

これは、本品種は生育が早く、同一期間内で節数が多くなるためと考えられます。

## (4) シソ斑点病に強い

シソ斑点病は、栽培中の葉に褐色小斑点が発生する、シソの重要病害の1つです。症状が酷くなると、地際部の茎が黒変してくびれ、倒れます。また、出荷後のパック内でも発病する場合があります。

病害抵抗性を調査した結果、本品種は在来系統より発病が抑えられ、「愛経1号」と同程度の抵抗性を持つことが分かりました(図2)。

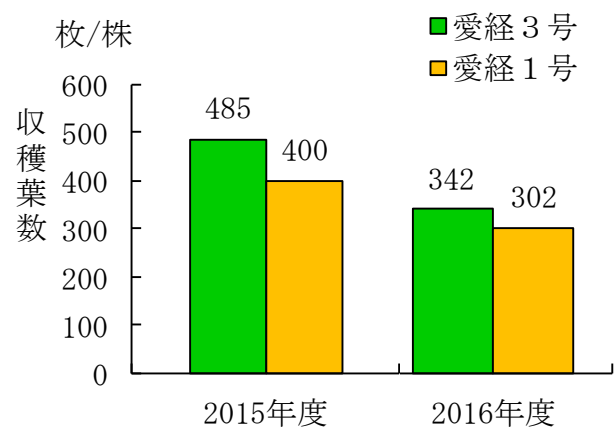


図1 「愛経3号」の収量

2015年度：2015年12月播種、2～5月収穫、隔離床栽培

2016年度：2016年12月播種、2～6月収穫、地床栽培

## 4 おわりに

本品種については、現在、各産地で栽培用の種子を増殖中です。2019年秋ごろから栽培が開始し、同年冬から出荷される予定です。

今後、低温期に出荷する作型を中心に普及することで、高品質なアオジソを安定的に供給できるものと考えられます。このことで、生産量の全国シェアが第1位である本県のアオジソの評価がより一層高まることが期待されます。

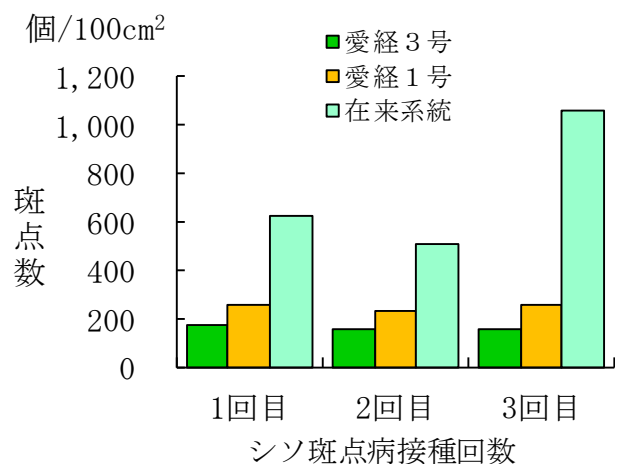


図2 「愛経3号」のシソ斑点病抵抗性検定結果

「愛経3号」と在来系統間には有意差あり

「愛経3号」と「愛経1号」間には有意差なし



## 外部サービスの利用による農業労働力の確保

東京事務所行政課農産物プロモーショングループ

3月12日（火）、NPO法人農業情報総合研究所が主催する農業ビジネス研究会（異業種交流セミナー）において、施設野菜の自動収穫機を手掛けるinaho株式会社（以下、inaho社）代表取締役CEO、菱木豊氏による講演が行われました。inaho社が取り組む野菜収穫ロボット及びその利用・事業形態と、農業を取り巻く労働力確保の課題について紹介します。



inaho社代表取締役CEO 菱木氏



施設野菜の収穫ロボット (webページより)

### 1 モノを売らない事業形態

神奈川県鎌倉市に本社を置くinaho社（2017年1月設立）は、自動収穫ロボットによる労働力（サービス）を提供する会社であり、一般的な農機具メーカーのように農業機械の販売を手掛けていません。ロボットが収穫した農産物の売上から得られるマージン（15%）により収益を得る「RaaS」という事業形態をとっています（表1）。

比較的近い事業形態には、必要な時に必要な分だけソフトウェアを利用させる「SaaS」やカーシェアリングに代表される「MaaS」があり、モノを売るのではなく、ソフトウェア使用や移動手段というサービスを提供することで手数料を得る形態です。

表1 モノではなくサービスを提供する主な事業形態

SaaS : Software as a Service (ネットワークを介し使用するソフトウェアなど) →必要なソフトウェアを、必要な時、必要な機能だけサービスとして提供し、 使用した時期、量に応じ使用料を受取る事業形態
MaaS : Mobility as a Service (カーシェア、オンライン配車サービスなど) →移動手段を、必要な時だけ提供し使用料を受取る事業形態
RaaS : Robot as a Service ( inahoの自動収穫機など) →ロボットを、必要な時だけ提供しマージン(使用料)を受取る事業形態

## 2 労力不足解消以外のメリット

inaho社が提供するサービス利用生産者の最大の目的は「収穫労力の確保」ですが、「初期費用がかからない」「故障や経年劣化の心配がない」「売上に対する経費の割合が一定」といったメリットも得られます（表2）。また、ロボットが収穫物を認識するために使われる画像処理技術には、将来的に病害虫の発見・診断、生育診断、出荷予測など、技術や流通へのフィードバックも期待されています。

表2 「サービス」利用によるメリット

利用形態	サービス	購入
初期導入費用	不要	高額
稼働手数料	マージンの支払	無
メンテナンス	無償	有償
性能向上	ソフトのアップグレード、最新パーツへの換装が可能	購入時のまま 部品により経年劣化も
可動性	必要に応じて移動可能	1農家1農機具 保管場所が必要

## 3 産地維持の戦略的なパートナー

inaho社が提供するサービスでは、収穫量に応じたマージン（手数料）が対価で、購入する場合と違い、栽培規模により過剰投資となることはなく、小面積や部分的な利用、あるいは数年で品目転換、離農となった場合にも大きな無駄にはなりません。年齢構成や栽培規模に応じて、サービスを受けられるので、地域の実情に即した産地維持対策としても有望と考えられます（図1）。

そしてinaho社にとっては、生産者の収量増加が直接的な収益増となり、さらに生産者が規模拡大したり、産地の生産性向上が安定することで収益確保に繋がります。また、同社では、常にセンサーなどの機器の更新やデータのフィードバックによる性能アップに努めており、シーズン毎に生産性向上が期待できます。恒常的な人手不足の中で、既に多くの産地・JAから戦略的パートナーとして注目されています。

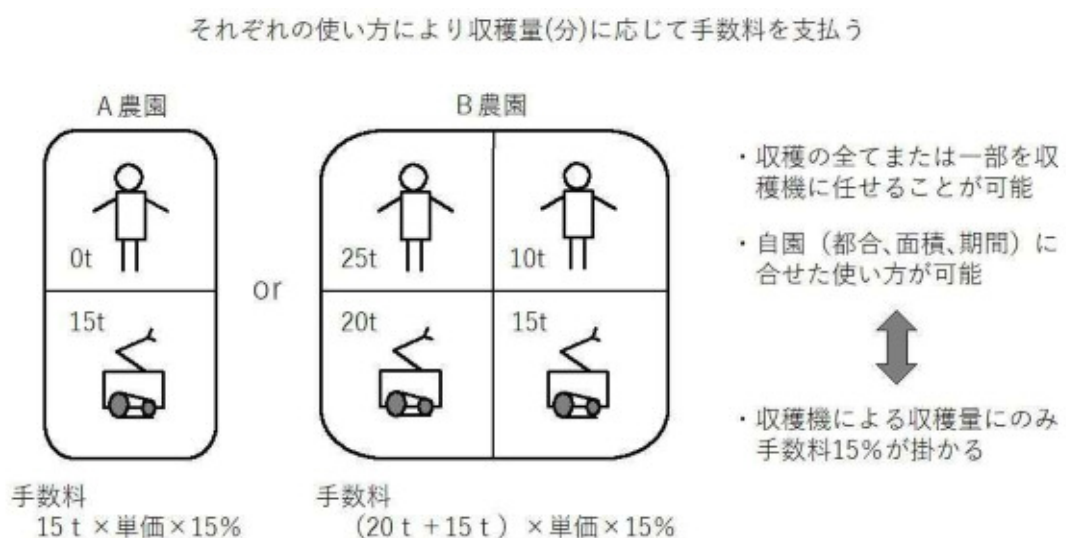


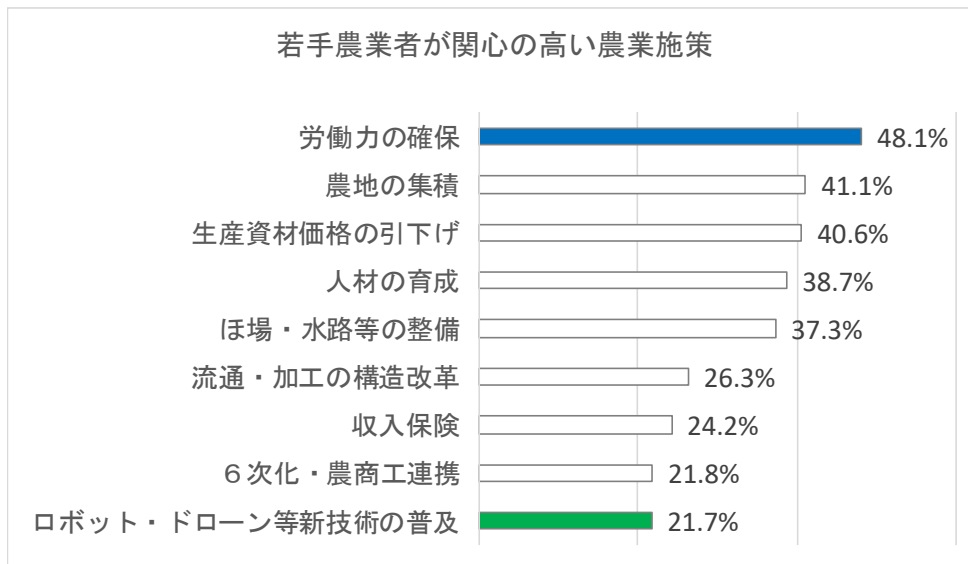
図1 inaho社のサービス利用イメージ

#### 4 inaho社の今後の事業展開

inaho社は、現在鎌倉本社と佐賀県の支店で事業を展開していますが、今後も支店を増やしていく予定とのことです。同社では、迅速な対応を可能とするため支店から車で30分以内の生産者しかユーザーにしない方針を打ち出しており、加えて「施設園芸の盛んな地域に重点的に支店を配置する」という方針のもと、九州、高知、関東近県、岩手での事業展開を計画しています。今のところ、本県はその地域に含まれていませんが、同社の支店設置条件として、「年間を通して150台の利用」などを目安としており、部会や地域単位での説明会の依頼などを通し、産地ぐるみのまとまった利用などを働きかければ、今後本県での事業展開も期待できるかもしれません。

#### 5 農業における今後の人手不足対策

農業においても他産業同様に人手不足が課題となっています（図2）。本県でも新規参入による担い手確保、鉄コン・ガゼットパックでの出荷やバラ受け選果場の整備を始めとした販売形態変更及び作業外部委託による省力化に取り組まれています。ロボットによる作業代行・分担は今後の魅力的な人手不足解消の手段になると思われます。



若手農業者が関心の高い農業施策（部門別）

部門	1位	2位	3位
稲作	ほ場・水路等の整備	農地の集積	労働力の確保
畑作	農地の集積	労働力の確保	生産資材価格の引下げ
露地野菜	労働力の確保	農地の集積	生産資材価格の引下げ
施設野菜	労働力の確保	生産資材価格の引下げ	人材の育成
果樹	労働力の確保	人材の育成	生産資材価格の引下げ
花き・花木	労働力の確保	生産資材価格の引下げ	人材の育成
酪農	労働力の確保	人材の育成	IoT・ロボット・ドローン等新技術の普及
肉用牛	人材の育成	労働力の確保	

図2 若手農業者が感心の高い農業施策  
（出典：農林水産省「平成29年度食料・農業・農業白書」）



## 県産農林水産物のインバウンド需要拡大に向けた取組

食育消費流通課

日本を訪れる外国人旅行者(以下、「インバウンド」)の数は平成29年に過去最高の2,869万人を記録し、ここ5年間で3倍以上になりました。本県における平成29年のインバウンドの数は255万人であり、平成24年と比較して約3.2倍に拡大しています(表1)。

本県においては、今後の人口減少に伴う農産物の国内需要減少を補完する新規需要として、インバウンドによる県産農林水産物等の消費拡大が期待されており、インバウンド受け入れ事業者の育成や集客に向けたPR等の需要拡大対策が重要な課題となっています。

表1 全国並びに愛知県における訪日外客数の推移

	平成24年	25年	26年	27年	28年	29年
全国訪日外客数 <sup>※1</sup> (千人)	8,358	10,364	13,413	19,737	24,040	28,691
うち愛知県 <sup>※2</sup> (千人)	786	881	1,234	1,934	2,284	2,554

日本政府観光局(JNTO)作成資料、「訪日外国人消費動向調査」より

※1 国籍に基づく法務省集計による外国人正規入国者から日本に移住する外国人を除き、これに外国人一時上陸客等を加えた入国外国人旅行者。

※2 訪日外客数に「訪日外国人消費動向調査」における都道府県別訪問率を乗じた推定値。

## 1 平成30年度の取組

近年、インバウンドにおいては、果物狩りができる観光農園の訪問や、収穫したものを自分たちの国に持ち帰るお土産としての需要が高まっています。そこで、平成30年度は事業者向けセミナーのほか、果物狩りなどの農業体験を含めたモデルツアーの実施やSNS等による情報発信により需要喚起を行いました。

## (1) 他県の事例調査とセミナーの開催

インバウンド対応の先進地域として、福岡県と和歌山県を調査し、11月7日(水)にインバウンド対応セミナーを実施しました。

セミナーでは、福岡県のいちご観光農園「株式会社ちくしの農園」の代表取締役 石橋徳昭氏から、インバウンド対応の成功・失敗事例について実体験に基づいた御講演をいただきました。



セミナー開催の様子

## (2) Web等による情報発信

インバウンド向けのWebサイト「Japan Fruits」内に「愛知の美味しいフルーツ特集」ページを開設し、愛知の魅力的な果物の紹介と農業体験ができる観光農園等の情報を掲載しました。

本Webサイトには県内の観光農園が28件登録されており、本事業を契機にサイトに登録した観光農園には、登録後、海外から申込が入るようになりました。



Webページ(タイ語版)のTOP画面  
【URL: <https://the-way-of-japan.com/fruits/th/feature/aichi/>】

### (3) モニターツアーの実施

ツアーでは、県内の在留外国人を対象に、収穫などの農業体験や、県産農林水産物等を購入・飲食できる店舗等を巡るツアーを2回開催し、参加者にはSNS等で情報発信してもらいました。

参加者からのSNS投稿を受けて、母国の家族、友人、知人等からは、愛知県を訪れてみたい、甘いフルーツを食べてみたい、といった好ましい反応が返っていました。

#### ア 1回目のツアーについて

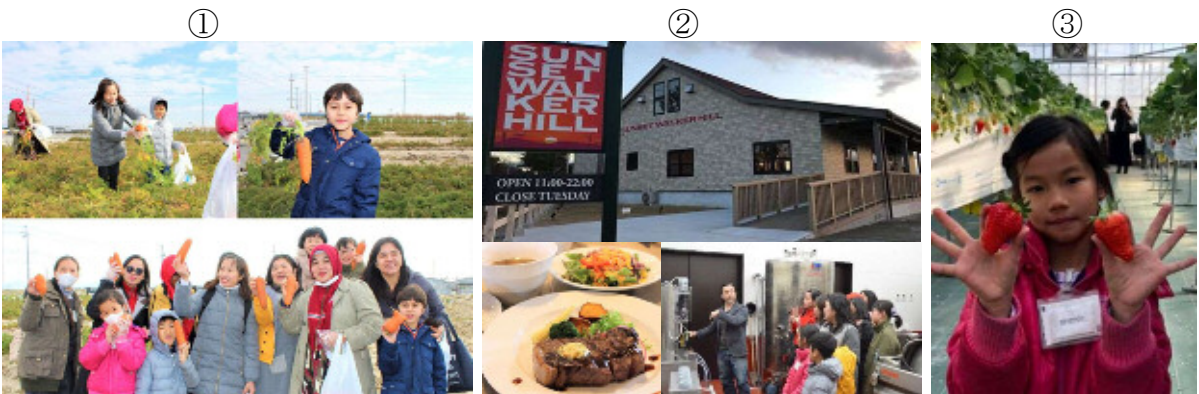
実施日	場所、内容	参加者
平成30年 11月16日(金)	①石巻観光農園（豊橋市）、柿狩り ②蒲郡オレンジパーク（蒲郡市）、昼食・みかん狩り ③JAあぐりタウン元気の郷（大府市）、直売所見学	3か国（中国、韓国、タイ）6名



1回目のツアー実施の様子

#### イ 2回目のツアーについて

実施日	場所、内容	参加者
平成31年 2月2日(土)	①あおいパーク（碧南市）、にんじん・ミニトマト収穫体験・直売所見学等 ②サンセットウォーカーヒル（常滑市）、昼食・ワイナリー見学 ③オレゴンファーム（常滑市）、イチゴ狩り	5か国（中国、フィリピン、インドネシア、ベトナム、ブラジル） 6組12名の親子



2回目のツアー実施の様子

## 2 今後の取組方向

農業分野におけるインバウンド需要喚起の取組は、始まったばかりです。

今後は、県内の取組実態をより詳細に把握するとともに事業者のネットワーク化を図り、事業者の掘り起こしと引き続き意欲ある事業者に向けた支援を行います。



## 県産農林水産物のイメージアップと本県主要品目のブランド力強化の取組

食育消費流通課

愛知県には、全国トップレベルのブランド力を持つ名古屋コーチン、花き、抹茶、あさり、うなぎなどの他にも産出額が全国上位の農林水産物が多数ありますが、それらの知名度は必ずしも高くありません。

このため、県産農林水産物全体のイメージアップと主要品目の更なるブランド力強化を図るため、県内外において、いいともあいち運動を活用したプロモーションを実施しています。ここでは、平成30年度における主な取組について紹介します。

### 1 県外に向けた知名度向上の取組

#### (1) メディアを活用したプロモーション

本県農林水産物のイメージアップを目的として、月刊雑誌にPR広告を掲載したほか、知事と中日ドラゴンズ松坂投手による対談記事広告を首都圏で発行される新聞に掲載しました。また、料理レシピ掲載サイト上に本県の公式キッチンを開設し、県産農林水産物を用いた料理レシピを掲載したところレシピによっては検索数で1位になるなど人気を博しました。



PR広告掲載誌面

#### (2) 体感イベントによるプロモーション

平成31年2月22日（金）から24日（日）に、県外からの玄関口に立地するミッドランドスクエア（名古屋市中村区）で、ブランド力のある県産農林水産物に「見て」、「触れて」、「感じる」ことができる体感型のイベント「いいよね! 愛◎地産 体感フェア」を開催しました。会場では、ミニブーケづくりやあいちの魚の水槽展示などを通して、全国トップレベルの県産農林水産物をPRしました。



体感フェアの様子

#### (3) 販売によるプロモーション






平成30年12月1日（土）から2日（日）に、有楽町駅前広場（東京都千代田区）で開催された愛知の観光物産展「こってりだけじゃない。ディスカバー愛知フェア」へブース出展し、県産農産物やその加工品等の販売を行うことにより、多くの首都圏の消費者に対して県産農林水産物と直接ふれあう機会を提供することができました。



観光物産展の様子

## 2 本県主要品目のブランド力強化の取組

名古屋コーチン、花き、抹茶、あさり、うなぎ、小麦といった本県が誇る主要品目について、イベントや商談会の開催等を通じて、それぞれの魅力を県内外に向けて発信しました。

品目	実施状況
名古屋コーチン	<ul style="list-style-type: none"> <li>「名古屋コーチンの日(3月10日)」の定着を図るため、消費拡大イベントを開催した。 期日:平成31年3月4日(月)～10日(日) 場所:名古屋市農業センターdela(でら)ふぁーむ</li> <li>首都圏の消費者に対して、名古屋コーチンを食べられる場所を周知するため、「首都圏版名古屋コーチン飲食店マップ」を作成した。</li> </ul> 
花き	<ul style="list-style-type: none"> <li>新たな花き需要の創出を目的とし、バレンタインデーに男性から女性に花を贈る「フラワーバレンタイン」運動の推進を図るため、PRイベントを開催した。 【東京】 期日:平成31年2月9日(土) 場所:銀座三越(中央区) 【県内】 期日:平成31年2月9日(土)～11日(月・祝) 場所:mozoワンダーシティ(名古屋市西区)</li> <li>新品種である「かがり弁」の輪ぎくのブランド化を図るため、PR活動を行った。 【東京】 期日:平成31年2月1日(金)～3日(日) 場所:関東東海花の展覧会(豊島区) 【県内】 期日:平成30年11月22日(木)～25日(日) 場所:あいち花フェスタ2018inデンパーク(安城市)</li> <li>「花の王国あいち」をPRするため、県本庁舎に「あいちおもてなし花壇」を設置して、あいちの花きを通年で展示した。</li> </ul>  <p>PRイベントの様子 (mozoワンダーシティ)</p>
抹茶	<ul style="list-style-type: none"> <li>「あいちの抹茶」の消費拡大とお茶の文化の浸透を図るため、知事が席主となり、県政に功労のある方や県内のお茶に親しみのある学生等を招待し「第7回愛知県茶会」を開催した。 期日:平成30年10月8日(月・祝) 場所:愛知県公館(庭園)</li> </ul> 
あさり うなぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>あさり、うなぎ等県産水産物の知名度向上を図るため、モバイル端末を用いて、産地を巡るスタンプラリーを実施。スタンプスポットで水産物の生産から販売までの過程を動画で視聴できる仕組みを構築した。 期間:平成30年7月16日(月) ～平成31年2月28日(木) 場所:産地の小売店、飲食店等(64箇所)</li> </ul>  <p>キックオフイベントの様子 (イオンモール常滑)</p>
小麦	<ul style="list-style-type: none"> <li>県産小麦の学校給食への導入を推進するため、学校給食関係者等に向けて情報発信を行った。 期日:平成30年8月28日(火) 場所:愛知県学校給食関連物資展示会(名古屋市中村区)</li> </ul> 



## 愛 知 産 青 果 物 の 動 向

「青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

前年並 : ± 1 % 台以下  
 わずか : ± 2 % 台以内  
 や や : ± 3 ~ 5 % 台  
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台  
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

### ○ 名古屋中央卸売市場（品目：チンゲンサイ）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地
		うち愛知産		愛知産	
30年実績	1, 117	516 (46%)	340	308	静岡 (47%) 茨城 (6%) 長野 (1%)
31年見通し	1, 200	—	320	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
現在の生育状況は良好で、入荷量は平年よりかなり多い。前進傾向のため2月から数量が出ているが、数量増はしばらく続く見通し。一方で、入荷増と学校休みで給食需要がないことから、価格は安値となっている。作付面積は主要産地の静岡、愛知ともに大きな増減はないが、前年は年明け後の不作もあり、年間の入荷量は増加すると思われる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。			現在の品質に問題はないが、気温の上昇とともに、黄変や傷みなどが発生しやすい時期となるため、収穫遅れや調製・出荷時の品質管理に注意をいただきたい。 近年は価格が上昇傾向だが、前年が不作で一時高騰したこともあり、本年は前年価格を下回る予想。価格維持のため、変動の少ない安定出荷をお願いしたい。また、学校等の給食がある時期には、月・火曜日に注文が増える傾向にある。収穫時期の調整は難しいところではあるが、ご留意願いたい。		

### ○ 東京都中央卸売市場（品目：さやえんどう）

	入 荷 量 (t)		卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産		愛知産	
30年実績	1, 337	332 (25%)	1, 084	1, 163	鹿児島 (18%) 福島 (12%) 中国 (5%)
31年見通し	1, 350	—	1, 050	—	
概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等		
暖冬の影響で年内、年明けと数量が増加し、前年に品薄となった1~2月は潤沢な入荷だった。生育の前進化に伴い、愛知や鹿児島では前倒しで出荷が進み、3月以降は荷が減少している。4月もこのまま少なめの入荷が続くと予想されるが、後続の福島、九州各県の入荷が本格化する頃には平年並の動きとなる。 入荷量は前年並となり、価格は前年をやや下回る見込み。			きぬさやえんどうでは、愛知産の紅姫は安心して顧客に提案できるので、出荷量、作付面積の維持をお願いしたい。 スナップエンドウでは、12~4月は愛知産がないと、量販店対応は厳しい。今後も安定出荷の維持をお願いしたい。		

名古屋・東京市場における青果物の4月の見通し

名古屋市中央卸売市場

3月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地 (%)			
				上旬	中旬	下旬	
野菜計	26年	33,159	210	212	208	206	愛知 25%
	27年	32,791	259	242	269	257	北海道 16%
	28年	33,834	242	250	246	233	茨城 10%
	29年	32,775	239	253	241	220	鹿児島 10%
	30年	32,444	209	213	210	204	熊本 6%
	5ヵ年平均	33,001	232	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	33,100	210	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>愛知、北海道、茨城などから入荷する。気温高により主に露地物で生育が前進し、安値が続く。露地物は概ね生育良好で、施設物も気温の上昇に伴う増量が予想され、今後も順調な入荷と安値を見込む。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年並となる見込み。</p>							
だいこん	26年	2,002	82	78	84	89	千葉 49%
	27年	1,980	124	116	131	131	愛知 38%
	28年	2,058	108	125	113	94	鹿児島 6%
	29年	1,733	104	120	102	96	長崎 3%
	30年	1,882	86	84	89	93	静岡 1%
	5ヵ年平均	1,931	101	105	104	101	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	1,900	90	90	90	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>千葉、愛知を中心に入荷する。高齢化で栽培面積は微減しているが、暖冬もあり平年並の入荷を見込む。前年は徳島などの残量が多かったが、本年は前進傾向で切り上がり早く、産地の切替はスムーズに進む見通し。入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。</p>							
にんじん	26年	2,360	133	153	131	119	徳島 96%
	27年	2,238	146	127	161	144	千葉 1%
	28年	1,839	174	152	173	192	鹿児島 1%
	29年	1,896	173	185	187	149	長崎 1%
	30年	1,532	234	231	231	239	
	5ヵ年平均	1,973	167	165	172	163	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	2,000	130	140	130	120	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>ほぼ全量が徳島からの入荷となる。徳島は生育良好で前進入荷している。大玉傾向で収穫時期が早まり、出荷が前倒しされている。入荷減で価格が高騰した前年と異なり、安定した入荷を見込む。 入荷量は前年を大幅に上回り、価格は高値だった前年を大幅に下回る見込み。</p>							

注) 「ねぎ」は「こねぎ」を含む。  
「なす」は「長なす」と「べいなす」を含む。

東京都中央卸売市場

3月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
野菜計	26年	136,391	227	222	230	229	茨城 16%
	27年	127,933	284	266	288	295	千葉 15%
	28年	131,769	267	272	267	264	北海道 8%
	29年	129,544	260	275	260	245	神奈川 8%
	30年	125,191	226	223	229	227	愛知 7%
	5ヵ年平均	130,166	253	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	131,000	240	—	—	—	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、千葉などの関東産地のほか、北海道、愛知などから入荷する。穏やかな天候を背景に、多くの品目で作柄良好。落ち着いたトマト類なども増量し、入荷増の単価安基調となることが懸念される。  入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり上回るも平年は下回る見込み。</p>					
だいこん	26年	12,582	79	67	78	90	千葉 78%
	27年	11,066	121	110	127	125	茨城 12%
	28年	10,805	104	113	110	91	神奈川 8%
	29年	11,375	94	108	90	84	鹿児島 3%
	30年	10,494	83	73	86	91	
	5ヵ年平均	11,264	96	94	98	96	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	11,000	85	90	85	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉を中心に神奈川、茨城からの入荷となる。神奈川は例年通り上旬で終了となるも、主力の千葉、茨城の生育は良好で、入荷は月を通して潤沢な状態が続くと見込まれる。  入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>					
にんじん	26年	8,650	131	145	127	123	徳島 71%
	27年	7,726	141	117	150	149	北海道 7%
	28年	7,313	163	134	159	189	静岡 5%
	29年	8,350	168	175	183	148	千葉 5%
	30年	6,640	214	210	213	220	台湾 3%
	5ヵ年平均	7,736	161	155	164	163	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	7,700	105	105	105	105	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>徳島中心に北海道、静岡、千葉などからの入荷となる。秋の播種の遅れは好天により回復。順調な生育で入荷は前倒し傾向。3月から安定した入荷が続いており、4月中旬にピークを迎える。  入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年の半値となり大幅に下回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

3月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

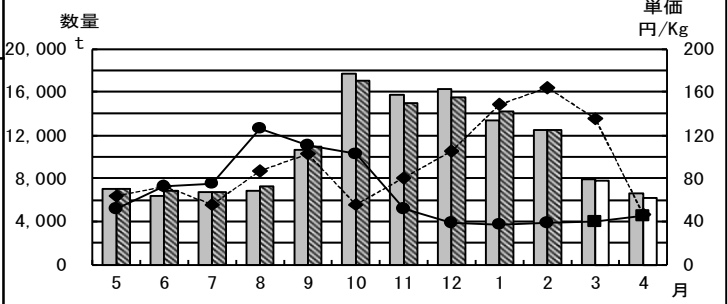
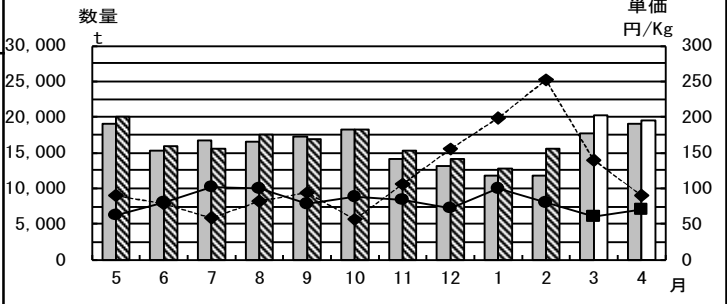
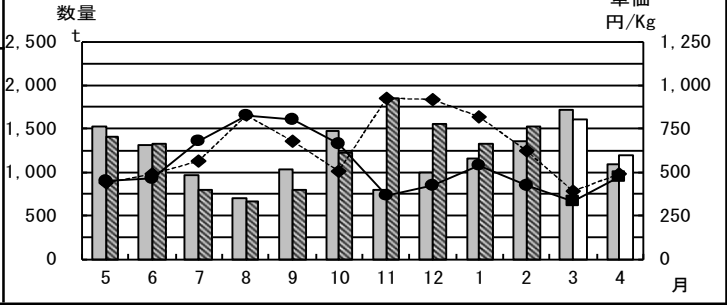
品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%)		
			上旬	中旬	下旬			
ほうき	26年	2,068	61	64	58	61	茨城	72%
	27年	1,814	130	90	152	153	愛知	11%
	28年	1,716	101	120	99	92	熊本	4%
	29年	1,676	151	199	156	101	長崎	4%
	30年	2,045	61	57	68	59	兵庫	3%
	5ヵ年平均	1,864	98	102	104	91	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	31年見通し	1,900	60	55	60	65		
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
い	<p>茨城を中心に愛知などから入荷する。前年末から厳しい販売が続く。各産地とも前進傾向で、生育状況は良好。4月は販売環境が若干改善する見通しだが、順調な入荷が続くため、安値が予想される。</p> <p>入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年並となる見込み。</p>							
キャベツ	26年	4,222	78	76	81	80	愛知	90%
	27年	4,112	132	103	135	149	神奈川	7%
	28年	3,966	109	95	113	123	兵庫	1%
	29年	4,001	109	132	107	101	茨城	1%
	30年	3,441	91	87	103	89	鹿児島	1%
	5ヵ年平均	3,948	104	99	108	109	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	31年見通し	3,900	75	75	75	75		
べ	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
つ	<p>愛知を中心に入荷する。好天もあり順調に入荷が伸びたため、価格は安値推移している。各産地ともに順調で前進傾向。業務筋も在庫が多く、荷動きが悪いため、引き続き販売には苦戦すると思われる。</p> <p>入荷量はかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>							
ほうれんそう	26年	259	440	309	552	504	愛知	44%
	27年	242	594	537	600	673	茨城	29%
	28年	297	504	523	460	549	岐阜	21%
	29年	293	471	450	451	552	群馬	2%
	30年	264	509	457	542	537	静岡	1%
	5ヵ年平均	271	502	456	517	561	前年及び本年の 入荷量・価格の動き	
	31年見通し	260	460	350	450	500		
ん	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
そ	<p>愛知、茨城、岐阜を中心に入荷する。愛知の作柄は問題なく、平年並の入荷を見込む。茨城も播種が順調に行われ、安定した入荷となる見通し。岐阜は暖冬の影響から増量する時期が早まるか。</p> <p>入荷量は前年並で、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
う								



東京都中央卸売市場

3月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ほうき	26年	6,255	53	65	46	48	茨城 98% 長崎 1%
	27年	5,613	128	96	147	145	
	28年	6,028	98	125	95	80	
	29年	6,152	141	192	148	92	
	30年	6,630	46	40	49	50	
	5ヵ年平均	6,136	92	103	95	81	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	6,200	45	45	45		
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>茨城からの入荷がほとんどを占める。1月の干ばつの影響はほぼ解消され、平年並の入荷を見込む。病害虫は少なく、今後ピークを迎える産地も多いことから、潤沢な入荷で、苦しい単価形成が見込まれる。入荷量は前年をかなり下回り、価格は安値だった前年をわずかに下回る。</p>						
キヤベツ	26年	19,117	94	87	103	92	神奈川 48% 愛知 33% 千葉 16% 茨城 2%
	27年	18,609	129	113	134	139	
	28年	17,540	115	104	113	126	
	29年	19,569	118	139	115	103	
	30年	18,977	90	95	99	76	
	5ヵ年平均	18,762	109	108	113	107	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	19,500	70	70	70		
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>神奈川、愛知、千葉からの入荷が中心となる。各産地とも暖冬の影響で生育は前進しており、入荷量は潤沢。早くからの豊作情報が功を奏し荷動きは良いが、入荷増により価格上昇には至っていない。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>						
ほうれんそう	26年	1,193	509	417	639	500	群馬 38% 茨城 37% 埼玉 12% 千葉 6% 栃木 2%
	27年	1,157	609	561	673	604	
	28年	1,269	512	524	482	529	
	29年	1,148	490	488	470	512	
	30年	1,091	488	420	591	475	
	5ヵ年平均	1,172	522	483	570	525	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	1,200	470	480	470	460	
さい	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>茨城、群馬など関東産地からの入荷が中心となる。暖冬により前進化しているものの、生育状況は概ね順調とみられる。気温上昇に伴い、入荷量が増加し相場を下げると見込まれる。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

3月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	26年	708	330	323	339	365	大分 26%
	27年	707	393	317	449	449	愛知 15%
	28年	666	441	404	466	480	鳥取 14%
	29年	660	411	404	427	415	静岡 13%
	30年	650	341	309	337	391	長崎 6%
	5ヵ年平均	678	383	351	404	420	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	700	330	300	330	360	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>白ねぎは大分、鳥取、静岡などが中心となる。前進傾向で平年に比べて若干入荷が増える見込みだが、大型連休前にはやや減少してくるか。普通ねぎは愛知中心。愛知は病気もなく順調な入荷を見込む。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をやや下回る見込み。</p>					
し	26年	1,877	189	151	193	228	茨城 51%
	27年	1,954	287	249	306	309	兵庫 33%
	28年	1,883	219	241	228	195	長野 6%
	29年	1,795	204	232	193	194	愛知 4%
	30年	1,782	160	153	174	154	群馬 2%
	5ヵ年平均	1,858	213	206	220	218	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	1,800	160	150	160	180	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城、兵庫を中心に入荷する。茨城は順調な入荷が続く見通しで、兵庫の淡路島産は上旬にピークを迎える。各産地とも生育良好で、全体的に大玉傾向になる見込み。愛知は気温が高い日が続くと、切り上がり若干早まるか。 入荷量と価格はともに前年並の見込み。</p>					
きゅうり	26年	1,608	248	244	254	254	愛知 52%
	27年	1,377	359	289	548	319	宮崎 15%
	28年	1,560	263	265	285	256	高知 14%
	29年	1,430	276	261	286	282	群馬 8%
	30年	1,797	208	209	207	209	鹿児島 5%
	5ヵ年平均	1,554	267	251	307	261	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	1,500	250	260	250	240	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>愛知を中心に宮崎、高知、群馬などから入荷する。愛知は病害虫も少なく、作柄は良好。上旬まで大きな増量はないが、中下旬から各産地がピークを迎える見通しで、価格が下がり、荷動きも良くなるか。 入荷量は前年を大幅に下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。</p>					

東京都中央卸売市場

3月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ねぎ	26年	4,051	243	242	228	258	千葉 39%
	27年	3,689	329	260	384	344	埼玉 22%
	28年	4,176	427	378	423	473	茨城 14%
	29年	4,146	363	361	370	356	栃木 5%
	30年	3,830	330	283	332	388	中国 4%
	5ヵ年平均	3,978	339	307	347	365	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	4,100	270	250	260	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>千葉県、埼玉など関東産地からの入荷が中心となる。2月下旬以降は雨も多く、各産地ともに生育が進み、太さがある。下旬は作型同士の端境となり、価格の上昇も見込まれる。 入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年を大幅に下回る見込み。</p>					
しめじ	26年	6,280	163	144	187	212	茨城 63%
	27年	7,449	281	247	297	303	兵庫 9%
	28年	7,991	213	246	220	180	群馬 6%
	29年	7,381	192	220	182	174	栃木 5%
	30年	7,327	147	145	159	136	香川 4%
	5ヵ年平均	7,286	201	203	210	201	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	7,100	130	140	140	110	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>茨城を中心に兵庫、群馬などからの入荷となる。暖冬と降雨により生育は前倒し傾向で、潤沢な入荷が見込まれる。記録的な小雪となった群馬からも入荷が始まり、下旬にはまとまった数量となる。 入荷量は前年をやや下回り、価格も前年をかなり下回る見込み。</p>					
きゅうり	26年	7,024	282	286	284	278	群馬 26%
	27年	6,594	365	313	506	316	埼玉 25%
	28年	7,764	263	261	280	251	宮崎 14%
	29年	6,913	279	273	286	174	千葉 13%
	30年	7,446	217	225	209	217	茨城 11%
	5ヵ年平均	7,148	279	270	309	246	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	7,300	230	280	230	180	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		<p>群馬、埼玉など関東産地を中心に宮崎からも入荷する。遅れていた群馬が最盛期となり、多くの産地も連休に向け増加してくる。一部で病害の報告があるが、概ね順調で潤沢な入荷となる見通し。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>					

名古屋市中央卸売市場

3月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
な す	26年	917	296	295	293	299	熊本 48%
	27年	698	399	364	411	423	愛知 45%
	28年	785	378	384	384	372	高知 5%
	29年	667	367	362	374	369	宮崎 2%
	30年	793	327	345	320	314	
	5ヵ年平均	772	350	347	352	351	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	790	340	360	340	320	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		熊本、愛知を中心に入荷する。愛知は病虫害も少なく、作柄良好。両産地ともに日照時間と気温の上昇に伴い、順調な入荷を見込むが、他の品目の価格低迷に引きずられ、やや安値推移となるか。 入荷量は前年並で、価格は前年をやや上回る見込み。					
ト マ ト	26年	1,451	333	333	336	331	熊本 54%
	27年	1,368	430	440	423	429	愛知 22%
	28年	1,466	390	432	416	342	三重 13%
	29年	1,540	313	338	326	282	岐阜 10%
	30年	1,502	300	307	302	292	高知 1%
	5ヵ年平均	1,465	352	369	359	333	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	1,500	323	350	320	300	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		熊本を中心に愛知、三重、岐阜から入荷する。愛知は3月中旬現在の数量は少なめだが、日照もあり4月は潤沢な入荷を見込む。他産地も作柄良好で、3月後半以降の入荷は増えていく見込み。 入荷量は前年並で、価格は前年をかなり上回る見込み。					
ミ ニ ト マ ト	26年	454	579	582	565	569	熊本 50%
	27年	469	706	704	703	700	愛知 36%
	28年	503	744	790	807	666	宮崎 7%
	29年	529	620	668	632	574	和歌山 6%
	30年	566	593	599	596	582	
	5ヵ年平均	504	647	668	660	617	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	550	600	650	600	550	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し		熊本、愛知を中心に宮崎、和歌山からも入荷する。愛知は作柄良好で、病気も少ない。熊本も作柄良好。4月は日照があれば気温の上昇とともに順調な入荷を見込む。中下旬には入荷ピークを迎えるか。 入荷量は前年をわずかに下回るが平年より多く、価格は前年並となる見込み。					



東京都中央卸売市場

3月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地(%) (愛知産比率)	
			上旬	中旬	下旬		
な	26年	3,544	366	348	363	405	高知 56%
	27年	2,929	480	414	582	462	福岡 16%
	28年	3,730	418	426	409	421	熊本 7%
	29年	3,336	438	434	445	436	群馬 6%
	30年	3,623	370	356	368	388	佐賀 4%
	5ヵ年平均	3,432	412	395	427	421	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	3,500	400	400	400	400	
す	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>高知を中心に福岡、群馬などからの入荷となる。主力の高知は大きな動きをせずに緩やかに増量。福岡はこれまでの好天による前倒し出荷の反動で一旦落ち着き、全体として安定した入荷となるか。 入荷量は前年をやや下回り、価格は前年をかなり上回る見込み。</p>						
ト	26年	7,623	361	360	366	357	熊本 32%
	27年	6,884	454	463	447	450	栃木 25%
	28年	7,845	403	446	421	364	愛知 10%
	29年	8,169	336	373	344	295	千葉 6%
	30年	7,464	333	338	331	329	茨城 5%
	5ヵ年平均	7,597	376	395	380	356	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	7,400	330	360	330	300	
マト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>熊本、栃木、愛知、千葉からの入荷が中心となる。3月は比較的停滞気味の入荷となったが、目立った病虫害もなく、4月は気温上昇や停滞の反動で入荷量は増える見込まれる。 入荷量、価格ともに前年並の見込み。</p>						
ニ	26年	1,849	558	573	561	544	熊本 42%
	27年	1,791	691	683	696	696	愛知 18%
	28年	2,101	676	716	741	612	宮崎 13%
	29年	2,075	565	616	576	511	千葉 8%
	30年	2,122	544	546	541	545	静岡 6%
	5ヵ年平均	1,988	605	626	622	579	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	2,200	540	560	540	520	
マト	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	<p>熊本、愛知、宮崎からの入荷が中心となる。熊本、愛知ともに作付面積を増やしており、生育も順調であることから入荷量は増加するとみられる。 入荷量は前年をやや上回り、価格は前年並となる見込み。</p>						

名古屋市中央卸売市場

3月15日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績 と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	26年	669	314	355	332	340	鹿児島 41%
	27年	598	524	544	537	598	宮崎 36%
	28年	679	407	424	412	431	高知 13%
	29年	667	382	367	382	413	茨城 10%
	30年	695	312	351	302	333	
	5ヵ年平均	662	384	405	389	419	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	680	400	450	400	350	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
鹿児島、宮崎などの西南暖地と茨城が中心となる。3月前半は2月の天候不順による花落ち等の影響で減少したが、回復傾向にあり、今後は増量していく見込み。春作についても潤沢な入荷を見込む。 入荷量は前年をわずかに下回り、価格は安値だった前年を大幅に上回る見込み。							
ばれいしょ	26年	3,022	142	138	142	149	鹿児島 87%
	27年	2,693	246	207	260	274	北海道 12%
	28年	2,642	268	274	287	256	長崎 1%
	29年	3,357	223	233	225	217	
	30年	2,724	132	122	126	152	
	5ヵ年平均	2,888	201	195	207	208	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	2,800	135	135	135	135	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
鹿児島を中心に北海道の残量などが入荷する。鹿児島は徳之島産が中心で、3月に雨が多く若干遅れたが、その分4月は増量を見込む。出水産は前進傾向。長崎は前進傾向で、20日頃から入荷が始まる見込み。 入荷量は前年をわずかに上回り、価格は安値だった前年をわずかに上回る見込み。							
たまねぎ	26年	4,090	134	149	132	122	北海道 74%
	27年	5,239	101	98	107	92	愛知 21%
	28年	6,353	75	82	81	73	静岡 3%
	29年	6,164	102	118	113	87	熊本 1%
	30年	6,085	91	103	96	82	
	5ヵ年平均	5,586	98	107	104	89	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	6,000	110	120	110	100	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
北海道、愛知中心の入荷となる。北海道の貯蔵物は不作で例年より少ない見込み。愛知は生育順調。サイズはL玉中心で中旬頃から入荷が本格化する見通し。静岡は中旬頃に終了するとみられる。 入荷量は前年並で、価格は前年を大幅に上回る見込み。							

東京都中央卸売市場

3月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
ピーマン	26年	2,353	379	395	364	378	茨城 54%
	27年	1,985	593	565	577	635	宮崎 25%
	28年	2,330	455	470	445	454	高知 12%
	29年	2,235	427	416	421	446	鹿児島 9%
	30年	2,368	387	414	373	374	
	5ヵ年平均	2,254	444	449	431	452	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	2,400	430	480	430	380	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>茨城を中心に、宮崎などの西南暖地から入荷する。各産地とも3月の好天で生育は回復。ほ場では大きな問題も発生しておらず、このまま増量基調となり潤沢な入荷が見込まれる。</p> <p>入荷量は前年並となり、価格は安値だった前年をかなり上回る見込み。</p>							
白菜	26年	9,700	133	126	128	142	鹿児島 68%
	27年	8,037	201	177	206	218	北海道 30%
	28年	7,876	238	243	246	227	長崎 2%
	29年	8,751	223	229	229	209	
	30年	8,333	115	110	112	125	
	5ヵ年平均	8,539	180	175	182	182	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	8,800	100	110	100	90	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>鹿児島からの入荷が本格化し、北海道の貯蔵ものは終盤となる。北海道は前年6、7月の天候不順で品質低下を引きずったまま終了へ。変わって主力産地となる鹿児島は、大玉傾向で入荷増が見込まれる。</p> <p>入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。</p>							
たまねぎ	26年	13,416	125	144	122	116	北海道 56%
	27年	14,348	113	104	113	120	佐賀 32%
	28年	14,423	87	85	90	86	長崎 3%
	29年	12,151	131	136	134	124	静岡 3%
	30年	11,905	102	110	99	99	中国 3%
	5ヵ年平均	13,249	111	115	111	109	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	14,000	100	120	100	80	
産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し							
<p>北海道の貯蔵物が終盤になり、佐賀から新玉ねぎの入荷が本格化する。北海道の貯蔵量は確保され、L大中心の出荷が続く。佐賀は1週間ほどの前進と大玉傾向で潤沢な入荷が見込まれる。</p> <p>入荷量は前年を大幅に上回り、価格は前年をわずかに下回る見込み。</p>							

名古屋市中央卸売市場

3月13日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格	前年主要産地 (%)			
				上旬	中旬	下旬	
果	26年	8,812	365	355	359	379	フィリピン 19%
	27年	7,427	395	382	381	421	青森 18%
	28年	6,792	435	454	425	426	熊本 17%
	29年	6,507	414	413	403	412	愛知 9%
	30年	6,083	440	443	431	430	三重 9%
	5ヵ年平均	7,124	406	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	6,800	380	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	いちご、かんきつ類、りんごなどが主な品目となる。かんきつ類は入荷の前倒しもあり、4月の数量は落ち着くか。りんごは例年よりも在庫量が多く、4月いっぱい安値予想。下級品も目立つ。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						
いちご	26年	966	862	773	899	953	愛知 59%
	27年	833	965	891	1,000	1,053	熊本 25%
	28年	956	910	900	865	964	鹿児島 5%
	29年	824	1,054	1,115	1,039	1,011	佐賀 4%
	30年	761	1,102	1,148	1,079	1,090	三重 2%
	5ヵ年平均	868	971	954	969	1,010	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	800	1,050	1,100	1,050	1,000	
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	愛知を中心に熊本などの九州産地から入荷する。3月前半の入荷量は平年より大幅に減少したが、3月末頃からは数量も増加し、4月はそれなりの入荷を見込む。一方で、高い気温から腐りも懸念される。入荷量は前年をやや上回り、価格は前年をやや下回る見込み。						
その他メロン(アールスメロンを除く)	26年	571	272	186	226	370	熊本 52%
	27年	319	350	233	428	428	メキシコ 33%
	28年	262	396	327	326	432	鹿児島 8%
	29年	327	321	193	339	441	宮崎 3%
	30年	207	459	377	463	496	長崎 2%
	5ヵ年平均	337	339	242	331	420	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	220	420	420	420	420	
その他メロン(アールスメロンを除く)	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本、メキシコを中心に入荷する。前年の単価安の影響か、メキシコからの入荷が大幅に減少し、数量減の価格高で推移している。熊本は平年並の入荷予想で、4月はメキシコ産が早く減少した前年に近い市況となるか。入荷量は前年をかなり上回り、価格は前年をかなり下回る見込み。						

東京都中央卸売市場

3月29日現在

単位：入荷量＝トン、卸売価格＝円/kg

品目名	区分 実績と見通し	入荷量	卸売価格			前年主要産地 (%)	
			上旬	中旬	下旬		
果	26年	28,649	400	397	397	405	青森 19%
	27年	27,804	427	434	415	433	熊本 15%
	28年	26,543	477	472	474	487	愛媛 12%
	29年	27,127	454	490	448	422	フィリピン 9%
	30年	23,963	490	518	480	469	栃木 8%
	5ヵ年平均	26,817	448	—	—	—	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	24,400	480	—	—	—	
実計	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	いちご、りんご、かんきつ類を中心に、すいかやメロン、ハウスみかんなどの施設果樹が入荷してくる。大玉すいかは下旬に一度ピークを迎えるか。ハウスみかんは例年通り中旬から入荷が始まる見込み。入荷量は前年並となり、価格は前年をわずかに下回る見込み。						
いちご	26年	4,288	913	851	941	969	栃木 44%
	27年	4,092	956	929	946	1,008	福岡 17%
	28年	4,930	949	923	979	948	茨城 9%
	29年	4,654	1,082	1,192	1,049	962	佐賀 8%
	30年	4,291	1,095	1,152	1,050	1,046	静岡 8%
	5ヵ年平均	4,451	999	1,011	994	985	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	4,380	1,060	1,050	1,080	1,050	
いちご	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	栃木を中心に福岡、佐賀などの各地から入荷する。栃木は3月下旬から入荷量が増え始め、4月は潤沢な見込み。福岡や佐賀はガラガラとした入荷の見通し。全般に傷み・品質を気にして入荷は徐々に減るか。入荷量は前年をわずかに上回り、価格は前年をやや下回る見込み。						
その他メロン（アールスメロンを除く）	26年	751	541	508	537	548	茨城 45%
	27年	623	622	606	605	636	熊本 28%
	28年	766	583	605	542	635	メキシコ 19%
	29年	797	535	605	542	635	コロンビア 2%
	30年	608	542	632	561	512	ホンジュラス 2%
	5ヵ年平均	709	563	570	555	572	前年及び本年の 入荷量・価格の動き
	31年見通し	710	520	530	530	500	
その他メロン（アールスメロンを除く）	産地状況と 入荷量及び卸売価格の概況見通し						
	熊本からアンデス、クインシー、茨城からオトメメロンが入荷する。熊本は作付面積が減少傾向。アンデスは順調な出だしで、中旬から量がまとまる見込み。オトメメロンは中下旬がピークか。入荷量は生育が遅れた前年を大幅に上回り、価格は前年をやや下回る見込み。						

# 切花・鉢花の4月の見通し

切花（愛知名港花き地方卸売市場 3月29日現在）

単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
輪 ぎ	実績	26年	1,799	45	
		27年	1,510	51	
		28年	1,677	55	
		29年	1,628	34	
		30年	1,781	35	
	5ヶ年平均		1,679	44	
	31年見通し		1,630	40	
概要	愛知、三重、沖縄を中心に入荷する。白ぎくは平年と思われるが、黄ぎくは作付けが減少しており、少なめに推移する。業務主体の動きとなる。				
小 ぎ	実績	26年	1,253	24	
		27年	1,160	31	
		28年	1,227	34	
		29年	1,104	19	
		30年	1,153	26	
	5ヶ年平均		1,179	27	
	31年見通し		1,150	27	
概要	沖縄を中心に入荷する。年末の返し分が出てくれば色・バランスの悪さや品薄感は解消されていくが、平年よりは少なめで推移すると思われる。				
カー ネ ー シ ョ ン	実績	26年	1,368	34	
		27年	1,205	49	
		28年	1,237	50	
		29年	1,172	34	
		30年	1,547	27	
	5ヶ年平均		1,306	38	
	31年見通し		1,300	35	
概要	愛知、長野、和歌山を中心に入荷する。本年は冬場、抑制されずに出荷されたので、4月から一気に出荷増とはならず、そこそこの単価で取引されると思われる。				
か す み	実績	26年	225	60	
		27年	235	74	
		28年	230	75	
		29年	196	60	
		30年	238	52	
	5ヶ年平均		225	64	
	31年見通し		225	60	
概要	高知、和歌山、熊本から入荷する。前進出荷の影響で上旬は少ない入荷となる見通し。中旬以降は回復してくる。上旬は入学式などイベントもあり、引合いが強く相場も強い。中旬以降は落ち着いた相場となりそう。				



単位：千本、円／本

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ゆ り	実績	26年	302	162	
		27年	324	172	
		28年	289	191	
		29年	262	163	
		30年	301	153	
	5ヶ年平均	296	168		
31年見通し	300	160			
概要	<p>オリエンタルは高知、宮崎、埼玉から入荷する。3月の入荷が少ないため、4月は増加する見込み。LAは順調に入荷。鉄砲は九州地区からの入荷は前年よりやや少ない。オリエンタル、LAは順調な入荷でやや販売は厳しいが、鉄砲は安定した相場となる見込み。</p>				
洋 らん	実績	26年	402	79	
		27年	411	85	
		28年	420	82	
		29年	377	72	
		30年	356	78	
	5ヶ年平均	393	80		
31年見通し	380	80			
概要	<p>愛知、徳島、静岡、鹿児島などのほか、輸入物が入荷する。国産のシンビジウムは終了に向かい、後半からは輸入物が入荷する。ファレは出荷が増えるが、輸入のデンファレはアンナが徐々に減少する。</p>				
ば ら	実績	26年	879	68	
		27年	752	87	
		28年	864	66	
		29年	750	63	
		30年	849	48	
	5ヶ年平均	819	66		
31年見通し	800	65			
概要	<p>愛知、岐阜、三重を中心に入荷する。高冷地の出荷も始まって来る。出荷量としては中旬に向け増えてくるが、輸入物の入荷がなくなる分、前半は品薄が見込まれる。</p>				
枝 も の	実績	26年	1,607	42	
		27年	1,558	48	
		28年	1,540	49	
		29年	1,405	47	
		30年	1,512	48	
	5ヶ年平均	1,524	47		
31年見通し	1,500	48			
概要	<p>長野、静岡、岐阜を中心に入荷する。枝物はイベントが少なく、弱めか。ユーカーリ需要は後半に行くほど強くなるが、新芽も早く、品質は弱くなるかもしれない。葉物は後半には多くなり、弱含みの展開となる見通し。</p>				

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
カラ	実績	25年	32,258	432	
		26年	37,944	455	
		27年	34,437	488	
		28年	11,959	536	
		29年	33,365	438	
	ラ	5ヶ年平均	29,993	460	
		30年見通し	33,000	439	
	概要	<p>入荷量は前年並か。早出し出荷の作付減もあり、母の日需要が高まる4月最終週より入荷量が急増する。とはいえ、注文中心の入荷となるため、競売品は品薄になる見込み。価格面では、入荷量の減少に伴い安定すると予想される。大輪のピンク、黄色の引き合いが変わらず強い。</p> <p>前年4月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位埼玉（49.0%）、2位長野（35.8%）、3位愛知（4.7%）となっている。</p>			
ファレノ	実績	25年	41,605	2,704	
		26年	50,298	3,058	
		27年	43,016	2,897	
		28年	27,799	3,365	
		29年	48,427	2,564	
	プ	5ヶ年平均	42,229	2,883	
		30年見通し	47,000	2,553	
	概要	<p>入荷量は前年よりやや減少する見込み。前年の4月の相場が厳しかったため、生産量の調整をしている。本年は3月末の法人需要に統一地方選挙もあり、白大輪の需要は増える見込み。そのため、4月の相場は安定する見込みである。</p> <p>前年4月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知（48.4%）、2位静岡（11.0%）、3位熊本（9.5%）となっている。</p>			
バラ及びミニバラ	実績	25年	75,733	240	
		26年	79,440	304	
		27年	89,611	249	
		28年	61,740	182	
		29年	75,413	190	
	ミ	5ヶ年平均	76,387	236	
		30年見通し	75,000	187	
	概要	<p>入荷量は前年並か。天候により出荷時期が前後するが、母の日が前年同様遅いので月末からの出荷時は咲き前には注意されたい。価格面は中値～安値を見込む。</p> <p>前年4月の主要県の入荷実績は、金額ベースのシェアで1位愛知（47.8%）、2位岐阜（38.4%）、3位愛媛（6.5%）となっている。</p>			

単位：鉢、円／鉢

品目	区分		入荷量	卸売価格	前年及び本年の入荷量・価格の動き
	実績等				
ハイドラ	実績	25年	166,426	688	
		26年	204,879	744	
		27年	217,051	764	
		28年	121,784	696	
		29年	191,128	771	
	5ヶ年平均		180,254	738	
	30年見通し		200,000	740	
概要	<p>入荷量は前年よりやや増加する予想。今後の天候によるが、大型連休に向けて多少前倒し出荷も予想される。5号サイズが入荷の中心だが、4号も近年増加傾向にある。</p> <p>前年4月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(62.8%)、2位群馬(12.7%)、3位埼玉(3.8%)となっている。</p>				
スパティ	実績	25年	28,609	393	
		26年	28,370	291	
		27年	24,439	357	
		28年	17,402	432	
		29年	24,602	356	
	5ヶ年平均		24,684	360	
	30年見通し		23,000	357	
概要	<p>入荷量は前年よりかなり減少するか。生産量が年々減少しているが、単価も上がらず前年より厳しい状況が予想される。今期も3号メインでの出荷が中心となり、続いて4号、5号と6号は生産量も減り出荷は少なくなると思われる。スパティフィラムは花上がりが大変なので、花の本数の多い物で価格の維持をしていきたい。</p> <p>前年4月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位三重(37.2%)、2位静岡(18.8%)、3位愛知(17.6%)となっている。</p>				
カーネーション	実績	25年	91,690	307	
		26年	166,101	370	
		27年	202,439	392	
		28年	40,834	276	
		29年	117,723	344	
	5ヶ年平均		123,757	357	
	30年見通し		118,000	342	
概要	<p>入荷量は前年並の予想だが、天候により花の進みが速くなる可能性がある。ただ販売は厳しい取引が予想される。ゴールデンウィークの10日間で良い流れになることが望み。良い状態の商品を最後まで提供することが最も大事と思われる。</p> <p>前年4月の主要県の入荷実績は金額ベースのシェアで1位愛知(29.2%)、2位その他(18.4%)、3位群馬(17.5%)となっている。</p>				



## いいともあいち運動って知ってる??

- 県内の消費者と生産者が今まで以上にいい友関係になる
- Eat more Aichi products (イート モア アイチ プロダクツ)

＝もっと愛知県産品を食べよう（利用しよう）

愛知県の農林水産業の振興や農山漁村の活性化を通じて県民全体の暮らしの向上を図るため、県民の方々に「愛知県農林水産業の応援団」になってもらい、消費者と生産者が一緒になって愛知県の農林水産業を支えているという「運動」です。

県民の方々に愛知県産農林水産物をもっと利用していただきたいという、「愛知県版地産地消の取組」でもあります。

あいち農産物生産流通レポート No.550  
平成31年4月発行  
農業水産局農政部食育消費流通課  
〒460-8501  
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号  
電話 (052) 954-6434